

交通安全に 取り組む人たち



歩行者に優しいまち 行田を目指して



行田警察署 交通課
鈴木秀典警部補

市内の交通死亡事故は県道128号熊谷羽生線および南大通線の交差点内で歩行者に関連して多く発生しています。事故の時間帯は夕暮れ時に増加していました。ドライバーは事故を起こさないよう、「止まったつもり、確認したつもり」ではなく、予測運転や安全運転の励行、ゆとりある運転の徹底を心掛けましょう。ドライバー自らが歩行者の気持ちになって「歩行者に優しいまち行田」を目指し、交通ルールの順守に努めましょう。

「右見て、左見て、 もう一度右を見て！」 交通指導員が楽しく教える交通安全

私たち9人の交通指導員は、小学校登校時の立上り指導の他、小さい頃から交通ルールを身近に感じてもらうため、幼稚園や保育園、小学校を訪問し、交通安全教室を開催しています。

時には腹話術や紙芝居を使い、楽しく分かりやすく交通安全を伝えています。身近な危険を理解してもらい、交通事故で悲しむことがないように、市民の皆さんに交通安全の大切さを知ってもらえるよう努めていきたいです。現在、交通指導員を募集しています。一緒に交通ルールの啓発活動を行いませんか。

▶問い合わせ 防災安全課交通担当(内線284)



交通安全教室で子供たちに優しく教える交通指導員

◆**ドライバー**
市内で発生した死亡事故のうち3件は、直線道路において横断中あるいは通行中の歩行者との事故でした。直線道路は、スピードを出し過ぎたり、注意が散漫となってしまうたりしがちです。直線道路を通行するときは、左右の歩行者や自転車の様子に注意し、スピードを出し過ぎないように心掛けましょう。また、ハイビームを



「KEEP38プロジェクト」マーク

有効に使い、早めに歩行者を見つけてようにしましょう。
◆**KEE P-38プロジェクト**
「KEEP38プロジェクト」は県内における横断歩行者の事故撲滅を目指し、「横断しようとする歩行者がいる場合の横断歩道手前での減速義務」と歩行者優先義務が規定された「道路交通法第38条」の遵守を促す取り組みです。

◆**自転車**
県内で発生した自転車乗車中の死亡事故で犠牲となった22人のうち7人は、ヘルメットを着用していれば助かった可能性が
◆**歩行者**
交通事故は、夕暮れ時や夜間



に多く発生しています。歩行者は、反射材を身に付けドライバーから見つけてもらいやすくしましょう。道路を横断する際は、横断歩道を渡り、斜め横断や横断歩道以外を渡る「乱横断」はやめましょう。そして、手をあげるなど、しっかり「横断意思表示」を行い、横断中も接近してくる車両がないかなど、周囲に十分注意しましょう。

◆**一人一人の意識が大事**
交差点を通行する場合は一時停止を守り、左右の安全をしっかり行いましょう。特に見通しの悪い交差点では徐行もしくは一時停止をして安全確認をするようにしましょう。
◆**問い合わせ** 防災安全課交通担当(内線284)



運転手さん、
わたりませーす!

運転中、横断歩道で待っている歩行者がいたら一時停止していますか。「急いでいるから」、「対向車も止まっていないから」など、自分勝手な考えで起こった痛ましい交通事故が後を絶ちません。

市内では毎年交通死亡事故が発生しています。交通事故は被害者・加害者の人生を大きく変えてしまいます。交通事故による悲しみをこれ以上増やさないためにも、どうしたら交通死亡事故を無くすことができるのか考えていきましょう。



◆**行田市の事故件数**
令和2年中、市内において、4人の尊い命が失われる死亡事故が発生しました。また、令和2年11月から令和3年1月にかけて、短期間に3件の交通死亡事故が発生しました。
市内で発生する交通事故は、皆さんの交通安全意識の高揚に伴い、前年に比べ減少していますが、交通事故死者数は4人と横ばいであり、非常に深刻な状況です。犠牲となった4人のうち3人が高齢者です。県内での交通事故死者数は減少していますが、65歳以上の高齢者が占める割合は、5割を超え、そのうち約8割が歩行中もしくは自転車乗車中に事故に遭っています。

令和2年中の高齢者の交通死亡事故(県内)

区分	計	四輪車	自動二輪車	原付車	自転車	歩行者
死者総数	121人	21人	22人	11人	22人	45人
高齢者	61人	10人	2人	1人	14人	34人
65歳~74歳	21人	6人	2人	0人	2人	11人
75歳以上	40人	4人	0人	1人	12人	23人

交通事故発生件数(市内)

区分	人身事故			物損事故
	件数	死者数	傷者数	
令和元年	265件	4人	317人	1,777件
令和2年	206件	4人	242人	1,456件

守っていただきますか、 交通ルール

ゆとりのある運転で交通死亡事故をゼロにしよう